

マルティヌー通信

日本支部版 第2号 9月26日 発行(年2回発行)

発行 国際マルティヌー協会 日本支部 事務局 連絡先 E-mail:yacchu0413@gmail.com(扇田) libusemusic@gmail.com(沢)

2020年は新型コロナウイルスの感染が拡大し、会員の皆さまも大変な思いをされていらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げます。マルティヌー協会も日本支部のみならず、世界各国の支部で様々なイベントを中止・延期せざるを得なくなりました。日々の皆様のご支援・ご協力に十分にお応えできない状況に、役員一同心を痛めております。一刻も早い感染の収束を願うばかりです。また、今回マルティヌー通信の発行が大変遅くなりましたこと、心よりお詫び申し上げます。今後も皆様に多くの情報をお届けできますよう努めてまいります。何卒宜しくお願い致します。

♪活動報告♪

2020年2月7日(金)に豊洲シビックセンターにて開催されました、本協会主催「チェコ・日本国交樹立100年記念コンサート」は約200人のお客様にご来場いただき、成功を収めることが出来ました。ご来場・ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。いわゆる「コロナ禍」に突入する直前での開催で、「通常」通りに運営できるぎりぎりの時期に、無事に開催できたことに感謝し、コロナ禍収束を心よりお祈りいたします。



写真：出演者一同

♪イベント中止のお知らせ♪

2020年10月20日(金)に開催を予定しておりました「チェコ・スロバキアと日本の外交関係樹立100周年記念演奏会」(国際マルティヌー協会日本支部主催)は、**新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止**とさせていただきます。演奏会を楽しみにされていた皆様、出演予定であった演奏者の方々に心よりお詫び申し上げます。

「コメニウスへの新たな接近 — 没後350年を記念して —」

開催延期に際して

2020年はチェコ思想家J・A・コメニウスの没後350年にあたり、チェコセンター東京では、相馬伸一氏(佛教大学)およびチェコ倶楽部の協力のもとで記念行事の開催を3月27日に予定しておりましたが、新型コロナウイルス流行拡大に伴い延期となりました。当日は関連映画の上映のほかズデニェク・フィビフの楽曲「コメニウス」(日本初演)のミニコンサート(当協会プレジデント・沢由紀子、会員・網野ひかり氏による連弾)などが予定されており、**当協会会員・堀内和幸氏が楽曲の解説**を行うこととなっております。講演予定であった資料を、本紙に添付して配布させていただきます。是非ともご覧ください!

プレジデント 沢由紀子より会員の皆様へご報告

本部との会議に参加しました!!

プラハの国際マルティヌー協会本部より、会員の皆さんに今年のマルティヌー・レビューと2019年のCDが届いたことと思います。8月末から9月初めにかけて、プラハ本部の役員の方々、イギリス、オランダ&ルクセンブルク、フランス&ベルギー、アメリカ、ドイツの協会支部のプレジデントの皆さんのインターネットでの話し合いに日本支部として参加させて頂きました。皆、真剣にマルティヌー・レビューの記事に取り組んでいて、とても感銘を受けました。私たちもまた日本から発信できるように活動して行きたいと思います。

会員のお部屋

※当協会会員の方々の活動についてお知らせいたします

Kフルートコンクール特別優秀賞

当協会会員の**忍田結梨氏**(桐朋音楽大学4年)が、第3回Kフルートコンクールにて特別優秀賞を受賞されました! おめでとうございます!

参照:

http://k-concours.org/flute_03.html?fbclid=IwAR0r_kn9nRzo0hPVXBwZCm-_5CD09WhtGaniwGZUNAkehBtGe0mKONNfe6Y

YouTubeにてマルティヌーピアノ作品を!

ピアニストで当協会会員の**小田裕之氏**のYouTubeチャンネルにて、マルティヌー作品の演奏をお聞かせいただけます。中でも奥様(十川菜穂氏)との連弾での「3つのチェコ舞曲 H.324」は、ダイナミックで息の合った、マルティヌーへの愛溢れる演奏です。ぜひYouTubeチャンネル「小田裕之」をご覧ください!

※「3つのチェコ舞曲 H.324」<https://youtu.be/5QJIC8jDGw>

「私のマルティヌー」エッセイ募集

マルティヌーについての思いを自由に文章にして、当協会までお寄せください「マルティヌーのCDの感想」、「マルティヌーのここが好き」、「マルティヌーの作品の思い出」etc...をテーマに自由に400字程度でお寄せください。頂いた文章の中から数点を選出、当協会主催コンサートのプログラムや、本紙などで紹介させていただきます。副賞あり。皆様のご応募お待ちしております。今回、本紙下記には当協会プレジデント・沢由紀子のエッセイを掲載いたしました。

私のマルティヌー：沢由紀子

私のマルティヌーとの出会いは、音大3年生の夏休みに(はるか昔・汗)、草津国際音楽アカデミー&フェスティバルに参加した時、(後に私のプラハでの師となる)パーレニーチェク先生に薦められ、受講生の演奏会でマルティヌーのトリオを演奏した時でした。この作品はフルート、チェロ、ピアノの編成でしたが、チェロをヴィオラでもできる作品でしたので、当時受講していたほかのクラスのフルート、ヴィオラの方と私のピアノの編成で演奏することになりました。当時室内楽をやってみる経験があまりなかった私は、ワクワクしながら草津のスキー場の中に建てられた練習場に通って、譜読みをし、集中的に皆さんと合わせをしました。発表したのは1楽章だけでしたが、リズムカルで旋律も明るく快活な曲でしたので、マルティヌーの変拍子の多いリズムと旋律が3人でピタッと合った時の快感、さすがささもあり、本番も楽しく演奏したことを覚えています。後に、全楽章を演奏する機会にも恵まれ、大切なレパートリーとなりました。その後、私はチェコに行き、パーレニーチェク先生とマルティヌーとの深い運命的な関係を知ることになります。長くなるので、またの機会に書かせて頂ければと思います。このフルート、チェロ、ピアノのトリオへ長調H.300は、Ⅲ楽章から成り、フランスのフルート奏者ルネ・ル・ロイ(1898~1985)の委嘱作品で、1944年コネチカット州リッジフィールドで作曲され翌45年ニューヨークで初演されました。